

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4770100206		
法人名	社会福祉法人 ゆうなの会		
事業所名	グループホームぬくぬくの家・幸		
所在地	沖縄県那覇市首里大名町1丁目43-2		
自己評価作成日	令和 2年 8月 5日	評価結果市町村受理日	令和2年10月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&Jigyos_yoCd=4770100206-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント		
所在地	沖縄県那覇市上之屋1-18-15 アイワテラス2階		
訪問調査日	令和2年 8月 26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者やご家族との関わりを大切にしています。毎日面会に訪れるご家族もあり利用者や職員との馴染みの関係を維持しています。スタッフは専門職であるという意識を常に持ち、研修会や勉強会で得た知識を活かし支援を行っています。地域行事である「夏まつり」「地域音楽祭」「地域福祉大運動会」「村あしび」等、地域の皆さんと一緒に参加する事で地域との関係性が継続できるように務めています。また、地域の児童との交流も図っています。夏休みの作品作りを行い、児童が夏休みの課題として作品を出品する事で保護者からも喜ばれています。元職員のボランティアの協力もあり利用者との馴染みの関係も維持しています。敷地内にディサービス、老人ホーム、大名居宅、大名包括支援センターも併設されている事から他職種で関わりがあった職員の訪問も多いです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体法人は、緑に囲まれた高丘の上に建ち「大名」の安心シンボリックな存在として45年目を迎えた今も地域交流の拠点となり地元で愛され親しまれている。当該施設も同敷地の一角に建ち、法人全体で行う「運動会」「夏祭り」等の恒例行事や毎月開催される地域との「ふれあい交流会」で利用者・利用者家族・職員が参加している。事業所は毎月実施している生花教室で、利用者が活かした作品は展示も兼ね各テーブルに飾っている。事業所独自イベントは、地域児童館に訪問したり、児童と利用者で協働作品(漆喰シーサー・絵画・工作・お菓子作り)制作で交流を深めている。本年度はインフルエンザの流行から始まり新型コロナ感染症の拡大により、事業所特色である地域との関わりを一旦断ちイベントは全て中止している。外部評価当日は感染拡大防止の観点から訪問時間短縮、利用者とは非接触、ヒアリングは別棟で飛沫シートが設置されたスペースで実施した。事業所は利用者や職員を守るため徹底した感染予防策に努めている。家族面会も禁止とし、オンライン面会に切り替える他、利用者がさびしくならないようにドライブで(事前連絡で待ち合わせ)車窓から家族との顔合わせを叶えている。職員は入室時検温・消毒を行い、外出の自粛を徹底している。法人は新型コロナウィルスの施設内発生を想定した専用療養スペースを設置し万一来備えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を常に意識できるように1階と2階フロアに掲示している。毎月のミーティングや勉強会で唱和し、理念に基づいた支援ができるように努めている。	毎月行われている職員ミーティングや勉強会開始時に職員全員で理念を唱和している。日頃のケアのなかで理念に基づいたサービスが行われているか職員間で話し合いケアの統一が図れるよう取り組んでいる。理念は職員の目につく場所に掲示している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	法人自体が地域との交流が深く、グループホームでも地域行事の「夏まつり」「地域福祉運動会」等へ参加している。また、地域の学童を訪ね、利用者の作ったクッキー等を持参してお互いに交流を図ったり、夏休みには当施設にて夏休みの作品作りを利用者と児童で行っている。	法人全体で行う「運動会」「夏祭り」等の恒例行事や毎月開催される地域との「ふれあい交流会」で利用者・利用者家族・職員が参加している。利用者がいけた生花作品を、展示も兼ね各テーブルに飾っている。手作りクッキーを持参して児童館を訪問したり、事業所に引き児童と利用者で協働作品（漆喰シーサー・絵画・工作・お菓子作り）制作で交流を深めている。地域の「むらあしび」に参加し、利用者は黒糖づくりにチャレンジした。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月の「認知症カフェ」に管理者が参加している。包括支援センターと協力して体操を行ったり、キャラバンメイトとして地域の児童に認知症についての絵本の読み聞かせを行った。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月（偶数月）に開催しており、活動報告や情報意見交換を行っている。出席者は当法人や市役所、包括支援センター、地域代表、家族、利用者、知見者として2事業所グループホームから2名の参加があり、活発に意見交換を行っている。議事録は玄関前に提示している。	会議は年6回開催され、利用者、家族、行政職員、地域代表、地域包括職員、知見者、協力医療機関代表者の構成で事業所の活動内容行事故他、ヒヤリハット事故報告を行い意見交換を行っている。今年2月からは新型コロナ対策として地域支援包括センターの大名職員、所長、局長、管理者、職員の5名の参加で開催している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者是那覇市グループホーム連絡会へ参加し日ごろ困っていることなど相談しながら協力体制を築いている。運営推進会議による市担当者への状況報告等も行っている。	市町村担当者は運営推進会議構成メンバーであり、日頃から連絡を取り合い、事業所の実情を相談しながら協力関係を築いている。市のチャージャーがんじゅーポイント制度を利用し、毎月継続してボランティアを受け入れている。市の開催する講習会・勉強会にも職員は積極的に参加している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	自由な暮らしができるように見守りを徹底し、日中は玄関を施錠していない。また、日ごろのケアが身体拘束に繋がっていないか職員同士話し合い、身体拘束をしないケアを行っている。	日頃のケアのなかで身体拘束にあたらないか、職員間で話し合い、利用者の行動抑制をせず自由な暮らしができるよう見守りを徹底している。深夜に居室内のトイレへ行き来で転倒リスクのある利用者の居室は、ベッドとトイレの位置を近くする等配置を工夫している。2階建ての1階居室から毎日深夜廊下を歩き周り他者の居室に入る方には、危険な行為に発展しないようカメラ(防犯用)を廊下に設置し2階にいる職員がテレビモニターから気付けるようにしている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ケアをしている時の言葉使いや態度が不適切ではないか、ミーティングや勉強会で話し合い虐待防止に努めている。「待つ」等のスピーチロックについても、利用者の呼びかけにすぐに対応できない理由を話すように心がけている。	「高齢者虐待防止マニュアル」が整備され、職員は内・外部研修の受講や、法人(定期)研修で虐待について、権利擁護に関する制度等を学んでいる。職員間の日常の会話のなかでも虐待に関する事故事件や、なぜ虐待に繋がってしまったのか等を話題にしたり、日頃の声掛けやケアのなかで不適切な対応をしていないか等話し合い、事業所での虐待防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度については、事業所内で勉強会を行い、必要に応じて説明ができるように資料も準備している。現在1名の利用者が成年後見人制度を利用されている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際、利用者や家族に契約書や重要事項説明書を用いてサービス内容を説明している。説明の中で不安や疑問がないかお聞きし、納得頂いて契約を締結している。介護報酬や制度改正時はその都度説明し同意を得ている。また、後にトラブルにならない様にリスクについても説明をしている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から利用者やご家族とのコミュニケーションを密にし、意見や要望が出せるように心がけている。玄関前に「希望の声」箱を設置してご家族様や外部からの意見が反映できるようにしている。意見なども苦情として受け止め会議等で検討し運営に反映するように努めている。	家族の面会時に直接要望をきく機会としている。食事が減ってしまった方には本人の好物「デビチ」や甘いお菓子を夕食時に提供したり、本人の好きな活動(歌、踊り)懐メロDVDを流し、楽しめるよう努めている。料理が好きな方にはおやつづくりの時間に、いもの天ぷらや、サーターずくりで腕ふるってもらっている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員が意見や提案が言いやすい環境作りと、聴く姿勢に務めるようにしている。毎月のミーティングや年2回のスタッフとの個別面談を通して、職員の希望や提案などが運営に反映できるようにしている。	毎月の職員ミーティングの他にも、個別面談等で意見や提案をきく機会を設けている。職員が向上心を持って働けるよう研修参加や資格取得を推奨し、講座スケジュールにあわせたシフト調整を行い安心して勉強に取り組める環境を整備している。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回人事考課を行い、職員が目標に向けて向上心が持てる様にしている。専門職登用、有資格者手当、研修費支給等やりがいのある職場を目指している。	職員は常勤のみで構成され全員国家資格を保持している。1日24時間を早朝・日勤・準夜・夜勤の4勤務帯で割当て勤務時間の一部を重複させた4勤務者と、個別対応担当者(外出支援・病院受診等)で回しシフトに偏りが生じないようにしている。各時間帯の業務内容も公平になるよう業務フローマニュアルが整備されている。業務内容は常に職員間で話し合い改善している。一人ひとりやりがいの持てるよう職場環境を整えている。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内研修は勤務内に行い、対象者が参加できるように調整を行っている。研修後は勉強会にて報告し他職員のスキルアップにもつなげている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、県グループホーム協会、那覇市グループホーム協会へ参加し、同業者と交流する機会を持ち情報交換を行っている。また、運営推進会議にも2事業所から参加し、意見交換も行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人や家族に事前にホームを見学して頂いている。事前面談で利用者の状態確認や生活状態を把握するよう努め、本人の想いを傾聴し、安心してもらえる関係作りに務めている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人や家族へこれまでの苦労や思いをゆっくりお聞きして、相談にのれるようにいつでも対応できることを伝えている。今、必要なサービスを話し合いご本人に合ったケアをご家族と一緒に考える様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族に事前にホームを見学して頂き、会話の中からこちらでの意向をお聞きしている。希望があれば以前通っていた大名施設内のデイサービスにも出かけ、交流を図っている。特に最初のひとは小さなことでも見逃さない様に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と一緒に食事をしたり家事に取り組んだりする事で、信頼関係を構築できるように努めている。共同生活の中で協力し合う関係性が築けるように支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時にはホームの普段の様子を伝え、ご家族と情報を共有するように努めている。施設の行事にも声掛けし積極的に関わって頂き、利用者のご家族との関係が継続できるように努めている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域行事への参加を通して馴染みの人や場所との関係が続くように支援している。大名地域に住まわれていた利用者が多く、知り合いや馴染みの職員からの声かけも多い。	地域住民との交流会に参加することで、近所に住んでいた方や、知人友人との交流を継続している。元職員も行事の度、ボランティアで訪れている。利用者の誕生日には「行きたい場所」「大切な場所」等リクエストをききドライブをしている。名護出身の方で、昔住んでいた家まで「ふるさと訪問」支援を行った。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家事やレク等を一緒に取り組む事によって良い関係作りができるように支援している。共同の場所では利用者間の関係性を把握し座る場所にも配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後も必要があれば対応し、相談や支援に努めている。利用者が入院した場合も面会を行い、本人やご家族が安心できるように配慮している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中での利用者の発言や行動は申し送りやミーティングを通して職員間で把握するよう努め、希望や意向が反映するよう心掛けている。耳の不自由な方にはホワイトボードを活用し、また、障害者施設にいる息子に会いたいとの希望がある利用者には面会の同行を行っている。	日々の会話のなかで思いや意向の把握に努め、情報は常に記録に残している。他施設に入所している家族に会いたいとの希望をうけ、毎月、スーパーで家族の好きなお菓子や果物を購入し面会に訪れている。ときには本人が芋天ぶらを揚げ、お土産にすることもある。一緒に過ごした時を写真に納め、帰所時さびしくならないよう、居室に撮影した画像を貼っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族から生活歴や価値観等を聞き取り職員で情報共有するよう努めている。歌が好きの方、掃除が好きの方、植物が好きの方等、これまでの習慣などを本人含め家族や知り合いからお聞きしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活リズムは毎日同じではなく、本人の体調、睡眠状態などを職員は把握し、その日の過ごし方を調整している。個々の残存機能を把握してできる事はご自身でやって頂くように支援している。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要の関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族面会時やアンケート等で、要望や意見を聞き、月1回の会議にて課題のケアについて協議を行い、介護計画に活かしている。モニタリングは3ヶ月に1回実施している。ケアチェック表を作成し、介護計画の見直しは半年ごとに行い、状態変更時には随時見直しを行っている。	計画担当者(管理者)は、利用者・利用者家族の意向を確認し介護計画を作成している。支援計画に基づいた実施記録表を作成し、毎月ミーティングで利用者毎に支援状況について意見を出し合い介護計画を確認している。モニタリングは3か月毎に実施し、介護計画の定期見直しは半年を基本とし、状態変化時は随時見直しとしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の様子やサービスの記録は、PCやタブレットでリアルタイムに情報発信し職員間で共有できるようにしている。「生活の様子」として個別に本人の発した言葉や行動の詳細を記している。言葉掛けの成功事例や失敗した経緯等、職員との会話内容を記し、その後のよりよいケアの実践に繋がられるようにしている。心身の変化や気になる言動は「申し送り表」に記録し、職員は就業		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々発生する状況に合わせて業務内容や時間の変更をしている。訪問看護、訪問マッサージ等必要に応じてサービス導入を行っている。また、病院受診介助は基本的にはご家族が行う事になっているが、ご家族が困難な場合は職員にて対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ウクレレ演奏会や本の読み聞かせなどボランティアによる積極参加があり利用者は楽しめている。地域の行事へ参加し、唄や踊り、食事を楽しむ機会を設け、観覧のみならず、本人も唄・踊りに参加している。法人で毎月行われている理髪サービス「啓髪の会」を利用しおしゃれに関心が向くよう支援している。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望に合わせたかかりつけ医を受診して頂いている。受診時には、バイタル記録情報と日々の様子を、同行する家族に伝え適切な医療が受けられる様に支援している。緊急時や家族の都合の悪い時は職員が同行し受診対応している。職員は、受診後は申し送り等で情報を共有している。	利用者全員が、かかりつけ医を継続しているが同行する家族も高齢となりどうしても都合がつかない場合や緊急時など職員が同行し受診を対応している。家族が介護タクシーを利用するケースなどもあるが、受診時にはバイタル記録や「診療情報提供書」を家族へ持参してもらい現在の状況が分かるように支援している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回訪問看護を受けている。職員は日々の変化で気づいた事や本人から訴えがあった時はすぐに看護師に伝え情報を共有している。排泄による血圧低下への対処や浮腫み、褥瘡予防の処置など相談してアドバイスを受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、情報提供し定期的な治療が行えるように支援している。入院から退院まで医療機関担当者との情報交換し、本人が安心してホームに帰り、日常生活に戻れるように支援を行っている。入院中は職員も面会へお訪れ利用者やご家族が安心できるように努めている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重要事項説明にて、重度化した場合の、事業所でできる範囲について詳細を説明している。医療ケアが必要となった場合、隣接の法人特養や医療機関へつなげる支援を行う旨の同意書を交付している。説明の中で疑問点があれば繰り返し話し合い、必要な手続きもサポートしている。	入居時に事業所としての重度化・終末期の方針や医療ケアが必要になった場合について、詳細に説明を行い、同意書を交付している。状態変化があった場合などは、家族、主治医と更に話し合いを持ち、適切な医療機関へつなげられるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時には即日職員ミーティングを持ち対応策等意見交換を行っている。勉強会では事故発生時の対応シミュレーションをして職員間の相互理解を深めている。毎朝定時にバイタルサイン測定を記録し測定中の会話や表情から小さな変化を見逃さないよう、日ごろから観察している。急変時に備えて職員、利用者、家族の緊急連絡先一覧表や訪問看護ナースコール体		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼夜想定しての防災避難訓練を年2回実施した。法人との合同訓練も行った。消火器の使用法、避難経路の確認など実践的に取り組んでいる。	昼夜想定した避難訓練が実施され、2階を出火元と想定した訓練においては、非常階段からの避難経路の確認、実際の避難を行っている。水や非常用食料など備蓄品も整備され、消費期限に気を付けている。法人との合同避難訓練も行われ、その際には地域の方々も一緒に訓練に参加し、地域との良い関係性が築けている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	事業所理念にも利用者の尊厳について謳われており、日頃より自尊心を損ねないように心掛けている。排泄介助の際は、職員は利用者の視界から外れるようにし、一人でゆっくりして頂くように見守りをしている。トイレのなかに「声掛け置き換え表」を職員の目線の先に張り、利用者の誇りとプライドを傷つけない声掛けの意識付けをしている。	利用者の気持ちに寄り添い、出来る事ややりたい事を見守りながら支援している。司会として人前で話す事が好きな利用者を役割として能力を引き出す工夫をしている。1階廊下にカメラを設置し、居室が1、2階と別れていることにより感じていた職員の不安を軽減し1階の利用者の安全と防犯対策に役立っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いを大事にした声掛けやケアを行うように努めている。日頃の声かけを利用者が自己決定ができる様に心掛けている。また、歌の好きな方には一人で歌う時間を設けたり、美容に興味のある方は美顔マッサージや美容系のチラシなどそっとお渡ししている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日、その時の利用者の心身に合わせて対応している。その日の体調を確認し日々の家事（洗濯物たたみや毎食後のおしぼりたたみ等）を日課として取り組んでいただいたり、歌好きな方には、好きな歌を声を出して歌う時間を設けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの際はなるべくご自身で服を選んで着て頂くが、自己決定が難しい方は日々接している中で好みを把握し、その方に似合う服を職員で選んでいる。ボランティアによる「啓髪の会」を利用したり、外出時にはおしゃれ着で身だしなみを整えて本人が気分良く外出できるように支援している。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みも取り入れ、個々の状態にあった食事形態で提供している。食事は職員も一緒に摂り、メニューや食材について説明をし、食事に興味を持っていただけるように努力している。	昼食に重きをおいた食事は、3食とも法人厨房から配食されており、毎食デザートが欠かさずお膳に準備されている。職員も食事介助しながら同じ食事をしている。朝食には、職員の手作りヨーグルト、おやつは手作りのポーポーやチンビンなどを利用者も職員と一緒に作ったり、厨房職員出張サービスでパン作りを楽しんでいる。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分は、一人ひとりの状態やその日の気分を観察し好きな飲み物をメニューから選んで頂くこともある。食事量の少ない方には、パンや果物栄養ゼリー等、その方が食べやすい物を提供している。献立表を掲示して、食事前にはメニューの説明を行っている。食事時は、ボリュームを抑えた音楽をかけ静かな環境づくりをしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声掛けを行い、ご自身では難しい方はケアの前に説明をし、口腔ケアを行っている。うがい、歯磨き、義歯のつけおき等も全て次亜鉛酸水を使用し清潔を保っている。1人ひとりの力に応じた歯磨き法を訪問歯科衛生士のアドバイスを受け支援している。		
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を確認し、排泄パターンに応じてさりげなく声掛け、トイレに案内する。日中は布下着を活用する事でおむつの使用を減らすように努めている。対応時、表情やしぐさにも注意し介助するペースをゆっくり丁寧に行っている。	1階の居室はすべてトイレ付となっており、2階には3ヶ所のトイレが整備されている。車いす利用者が増えており、トイレ介助の場合、出来るだけ利用者の羞恥心に配慮してトイレの外で待つようにしているが、転倒などのリスクを考え、車いすの位置を近づけるなど、持てる力を支援する工夫をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、牛乳や手作りヨーグルトを提供、10時、15時のお茶の時間はバナナシェイクゼリー等好みの飲み物で水分補給に努めている。日中、体操や余暇活動で適度な運動を行っている。便秘時は、主治医と相談し本人に合った薬で排便コントロールを行っている。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に週2回の入浴と入浴のない日は足浴、朝の起床時は清拭を行っている。希望によっては曜日の変更、本人の体調面も考慮しながら支援している。1回の入浴の質を高め利用者との大切なコミュニケーションの場としている。また、皮膚疾患予防とリラクゼーションを兼ね足浴は毎日実施している。	入浴はシャワー浴を基本として週2回としている。朝の起床時には皮膚状態の観察も含めて清拭を行い、就寝時に着たパジャマを着替えてもらっている。シャワーでの足浴も毎日行っている。半数以上の利用者ができる場所は自分で洗い、女性の利用者の同性介助の希望にも対応している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促し、生活のリズムを整える様努めている。午後は、ゆっくりと居室にて休みたい方や足の浮腫みが見られる方も一度横になるように声掛けを行い休息時間を設けている。		
47	(20)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬をもらってから服用後まで4重の確認・相互点検のプロセスを踏んでいる。与薬時は、本人画像と処方薬画像をつけた個別薬カードで確認を行い、本人が安心して服薬できる支援を行うと同時に薬に関する事故防止に努めている。新しい薬が処方された場合は即日申し送りで職員全員に周知し、職員は各自薬ハンドブック・辞典で用法副作用を確認している。	薬は受け取り後、管理者が鍵付きの棚で一括管理をしている。薬のセット、与薬時、飲込みの確認、薬の空き袋の確認など、確認作業を職員が連携して行っている。嚥下が難しくなっている利用者には、薬を粉碎してとろみをつけて与薬している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野で一人ひとりの力をはっきしてもらえる様、洗濯物たたみや草花の水やり、おやつ作り、出来そうな事を頼み、感謝の言葉を伝える様にしている。ドライブや敷地内周辺の散歩をし景色を楽しんだり気分転換の支援を行っている。沖縄県の「ちゃーがんじゅう体操」も人気である。		
49	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ミニドライブを計画し自宅周辺や馴染みの場所などをコースとしている。敷地内周辺も散歩している。本人の希望により「ふるさと訪問」も行っている。ご家族と受診する際には、外での食事もしてもらおうなど、ご家族との楽しみが持てる様に声掛けしている。	コロナ禍であっても工夫して、少人数でのドライブを行っている。時間を合わせて家族や知人が馴染みの場所で手を振っていたり、車窓からではあるが、外出や外食が出来なくなっている状況下で少しでも刺激を与えられるよう支援している。敷地内の散歩やプランターでのガーデニングも行い、最近では、「オレンジガーデニングプロジェクト」としてオレンジカラーのキンセンカを職員と一緒に育てている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を常に持っていたいという利用者はお金を預かり、買い物や外出時の支払いは金額を確かめ自分でお金が払える様に支援している。毎月定期的にご家族に会いに出かける方から、「お土産にお菓子買って持っていきたい、ジュースも買いたい」との声があり、少額ではあるがお金をお渡しし自身で管理していただいている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族へ電話をかけていただいたり、職員が電話をかけ本人に代わり会話ができるように支援している。。その時々々の希望に応えられるよう支援を行っている。また、正月にはご家族宛の年賀はがきを送るよう支援している。		
52	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や飾りつけで季節を感じられるように工夫している。テレビの音量や室内の明るさ、室温などはその都度調整し、利用者が快適に過ごせるように配慮している。壁には一緒に作製した作品を飾り、生活に彩りを与えるよう工夫している。。リビング中央の時計のそばに大きな文字カレンダーと日めくりカレンダー、今日の献立を並べ、毎朝職員と日めくりを確認と日めくりをしている	1階、2階とも居心地の良いソファが配置され、利用者は思い思いの場所で寛いでいる。毎月「生け花教室」があり、利用者は好みの生花や器選びなど、五感を刺激され自分なりのアレンジメントを楽しんでいる。アレンジフラワーは共用空間に飾られていたり、居室へ飾ったりして明るい雰囲気となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由に居室やリビングへの出入りができる様にした。必要に応じ席替えなどもある。椅子やソファ、リクライニングチェアを配置し、利用者の気分や身体状況に応じながら、くつろげる場所で過ごせるように配慮している。リビング中央はテレビやDVDを楽しめるようソファを置き、複数人で楽しみを共有できるよう工夫している。利用者は日中お気に入りの場所でおもいおもいに過ごし		
54	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室やフロアは温度調節をしたり、カーテンは遮光カーテンとレースで二重にして光を調整している。使い慣れた家具や小物・本をそのままお持ちいただき使用していただいたり、家族写真やぬいぐるみを飾る等、温かみのある過ごしやすい空間づくりを心がけている。	カーテン、エアコン、ベットは備え付けられており、洗面台の設置されている居室もある。利用者の使い慣れた家具が持ち込まれ、落ち着いた空間になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室・共有スペースは歩行や車イスを自走する方の妨げにならないように整理整頓している。ドアのへりはゴムで囲うなどして安全な環境と自立を促す工夫をしている。居室のベッドと壁の境目の距離を狭めて伝い歩きが行えるよう工夫している方もいる。部屋の入り口は迷わずに戻れるように居室ドアに顔写真と名前で見分けできるようにしている。		

目標達成計画

作成日: 令和 2年 9月25日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	49	現在、新型コロナウイルス感染予防の為に戸外に出かける機会が少なく、また、地域との交流もできない状況である。	気分転換をする事でストレスの軽減を図る。	①本人が住んでいた地域などを確認してドライブなどを月2回以上行う。②敷地内や、密集地を避けた場所でおやつ会や散歩等を行う。	12ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。